

昭和39年

8

広報 県の友

毎月1日発行 第316号

発行所 和歌山市小松原通1丁目1番地 和歌山県

発行人 広報課長 前田正毅

印刷所 和歌山新聞社

昭和39年5月23日国鉄特別版承認登記第2816号

災害にてなえて



昭和三十九年八月
北陸、山陰など日本海側は、梅雨のあけを前にして、連続的な集中豪雨にたたかれました。
昭和三十八年七月十八日、同じ熱帯にさらされた私たちには、災害地の惨状を、テレビ、新聞で目にし、ひととんどならず災害の恐怖に身のすぐれ思ひかします。
当時、和歌山県の死者・行方不明者は四千余人を数え、多くの家屋を失い、橋は流れ、道路は寸断され、一朝にして農民を悲惨のどん底に引きおどしたのです。
来る年も来る年も災害に見舞われ、災害とといわれる異名をつけられた本県でしたが、あれから十年、「禍を転じて福となす」を合言葉に県民の力を結集して、復旧・再建へ文字通り不屈の努力がつづけてきました。

昭和二十八年から昭和三十八年までの公共施設(道路・河川・港湾・橋梁など)の被害額の累計は、約一九〇億五千万円ものぼっています。三十八年度までにこのうちすでに七九億八千万円の施設が復旧完了しました。
堤防のかけられ、補強工事などもさることなく、災害から守る抜本的な工事を実施するため、工事にさきだち二年がかりの複雑な実験を経た画期的な施工がなされました。
海水道沿を設ける「かすみ堤防工事」なども一つの事例でしょう。こうして災害対策工事は、やがて迎える台風シーズンに大きな役割を果たすこととなります。

しかしながら北陸、山陰の災害が示すところ、気象の予測は非常に至難と言われ、思いがけない豪雨に襲われる危険性がひそんでいることを忘れてはならないのです。
台風を予測するために、過去の統計から割り出される方法が最も適中率があるといわれていますが、これは大型台風の当たり年になり立ったとの想定的な予測が寄せられています。

伊勢湾台風のように、上陸すれば被害が大きいという可能性を十分に念頭において、災害対策をとる必要があることも、各人にその心の備えを喚起したいのです。
人々は知った。不斷の心がまえのいかに大事かを……

あらじ日の憂難を忘れたかのように、橋は静かに流れる河に影を落とし、街々は明るく太陽に輝く。一年前のその日、濁流は堤防を一の轟いて、家々の軒をけずった。
人々は知った。不斷の心がまえのいかに大事かを……

写真左【上】完全に復旧できた日高川天田橋とその護岸。右【下】二八・七・一八水害當時の同様朝日新聞社撮影。左【上】さる七月十三・四日の両日、紀ノ川井ノ瀬橋下流で、防災総合訓練が実施された。日暮救護班と自衛隊員の活躍ぶり。

《ヨーキー》の イチワリ貯金

イチワリはガッチャリ 9割で生活を豊かに
田中さん 一家の月収
イチワリ貯金 3.000円
生活費 20.000円
交際娯楽費 3.000円
住宅資金積立金 4.000円
計 27.000円



興紀相互銀行



*お積立は無理のない金額を
常にあなたの収入の一割

(1.000円以上100円単位) 収入にあわせてお積立出来ます

イチワリ貯金+α(アルファ)サービス

*はまゆうクラブ

○ご加入者ははまゆうクラブの会員となります。

○会員になられて二年間経過した方には、住宅資金
ご結婚資金、ご入学資金等一定の条件で、いつでも融資のご相談に応じます。

*家計のご相談

各支店で家計についていつでもご相談に応じます。
また新しい構造の家計簿を差上げます。

第一歩をふみたした社団

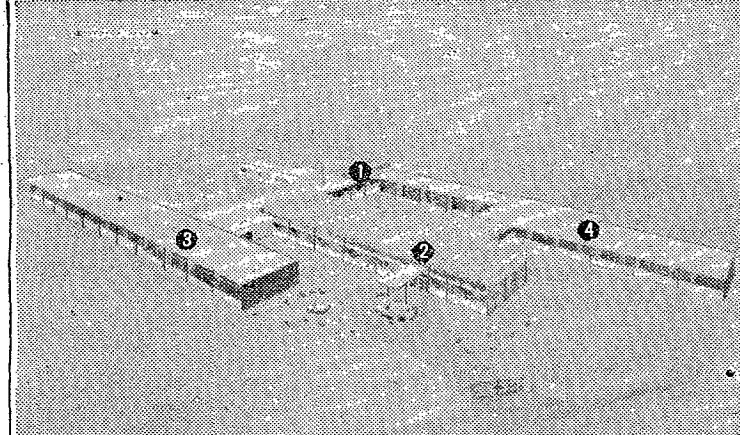
「きめの細かい明るい農民の福祉をはかる」小野知事が
との農政を示すとする理念です。
災害による災害と赤字財政の苦い長い歳月を乗り
こえ、今までじゅうぶん裏にせなかた社会福祉への
熱意を、これがこの県政にあらわしていくとする知事の
決意にほかなりません。

その決意どおり、さる七月十四日、働く婦人のいのい
場、母子家庭の援助の場として県社会福祉センターがで
きました。ひまつづき九月一日には椿温泉に軽賀老人ホー

農民の約

○新もあると
みられている
低所得階層の
人々、社会的な福祉援護を必要と
する人々、また多くの高齢者や心
身に欠陥のある人々、さらには母子
世帯や保護児童など、たくさん
のこれらの人々に福祉をもたらす
ことの重要性は、今さうなん
すまでもないことです。

この人々に対して、なにが必要
か——暖かい人の心であり、愛情
のための政治である——と言いま
す。今までの社会福祉事業といわれ
る仕事が、ただに一部の篤志家と
公の手でなされる政策と運営さ
れるべきなかったため、県も市
町村の財政上のつごういかが、
この社会福祉事業の発展を左右す



南紀疗育園の完成図 ①サービス棟②管理・医療棟③病棟・訓
練棟④精神薄弱児施設予定地

事業方針をささまる

まず今年度 し体不自由の建設

木村章平さんの話
手をつなぐ親の会議間
し体不自由見

あらわせないばかりれし
わらわしだらが細かいし体不自由
うれしい。という言葉は言い

てらるとうが状態です。
どちらも取容施設の不足がめだ
っています。

そこで福祉事業は、はじめて
の仕事に、し体不自由施設の建
設を選びました。とくに南紀には
一所所もないところから、建設場

所を上齋田町に決め、名前も南紀
疗育園と名づけて、八月から工事
にかかることになりました。

土地の広さは一万余三千平方メー
トロ、建物の大きさは延べ六千平方メー
トロ、収容定員は五〇人、医療設備や制

るところが大きかったことはいな
いに協力してもらいます。

経営は民間団体の自主運営ま
であります。が、団体の性格から
も当然のことながら公益性を絶対

に譲り、施設をつくり、運営して
事業への財政資金の投入は、決して
満足できる状況ではありません。

そこで国の年金福利事業団や、
その他の金融機関などからの資金を
借りて、施設をつくり、運営して
事業を大きく前進させることをし
ょう。

△△△△△

福祉事業団が、これからしよう
としている事業は次のとおりです
し体不自由児・精神薄弱
弱者の福祉のために

ボリオ・職業性、先天性障害
節弱性などが原因で、手足の
自由を奪われた子どもは、県下で
千数百人あります。

かで身体障害者更生相談所
が、紀南を巡回したところ、御坊
市以南の地方から四七〇人の子弟
を収容する施設は、和歌山市に
ある愛徳整修院がただ二か所、定
員も百人といつたままです。一方、精神薄弱児は全県で二万
二人と数えられていますが、特
別施設は県立有功が丘学園のみで
その定員はわずか五〇人、ほとん
どの子どもが特殊学級で教育され
近代的な観光、国際的な観光を伸

みられるといふと
低所得階層の
人々、社会的な福祉援護を必要と
する人々、また多くの高齢者や心
身に欠陥のある人々、さらには母子
世帯や保護児童など、たくさん
のこれらの人々に福祉をもたらす
ことの重要性は、今さうなん
すまでもないことです。

本県の場合も災害復旧と苦しい
財政のやりくりのなかで、福祉事
業に対する理解度はまだ十分で、
この人々に対して、なにが必要
か——暖かい人の心であり、愛情
のための政治である——と言いま
す。今までの社会福祉事業といわれ
る仕事が、ただに一部の篤志家と
公の手でなされる政策と運営さ
れるべきなかったため、県も市
町村の財政上のつごういかが、
この社会福祉事業の発展を左右す

るところが大きかったことはいな
いに協力してもらいます。

経営は民間団体の自主運営ま
であります。が、団体の性格から
も当然のことながら公益性を絶対

に譲り、施設をつくり、運営して
事業への財政資金の投入は、決して
満足できる状況ではありません。

そこで国の年金福利事業団や、
その他の金融機関などからの資金を
借りて、施設をつくり、運営して
事業を大きく前進させることをし
ょう。

△△△△△

この福祉事業團には県から五百
人、新規に三百人を雇用する
予定であります。また、この事業
は、これまでの年金福利事業と
併せて、年金福利事業団と連携
して、年金福利事業団と連携して
事業を運営する形になります。

この福祉事業團ができたことに
よって、社会福祉事業に必要な
暖かい人の心」と「愛情のある政
治」がつぶになって、本県の福祉
事業を大きく前進させることができます。

この福祉事業團には県から五百
人、新規に三百人を雇用する
予定であります。また、この事業
は、これまでの年金福利事業と
併せて、年金福利事業団と連携
して、年金福利事業団と連携して
事業を運営する形になります。

「きめの細かい明るい農民の福祉をはかる」小野知事が

ム「無藝園」が開所します。

いままで、五月に発足した財團法人和歌山県福利事業團

が、からだの不自由な子どもを収容する南紀疗育園の建設

に着手しました。

福祉事業團が、その躍動をいたして始めました。

事業計画を中心とした内容をお伝えしてみましょう。

福祉事業團の大きな理想にむかって、その旗手とも言へ

る「無藝園」が開所します。

この福祉事業團とは何をする団体でしょうか。今後の

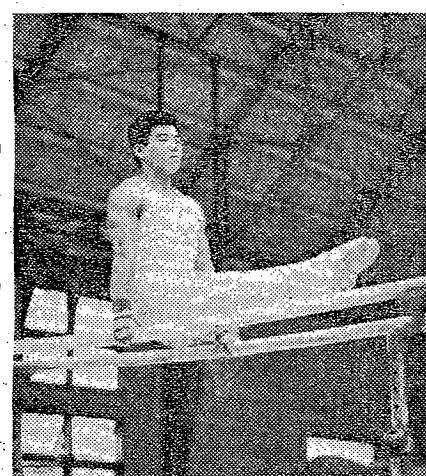
に着手しました。

福祉事業團の大きな理想にむかって、その旗手とも言へ

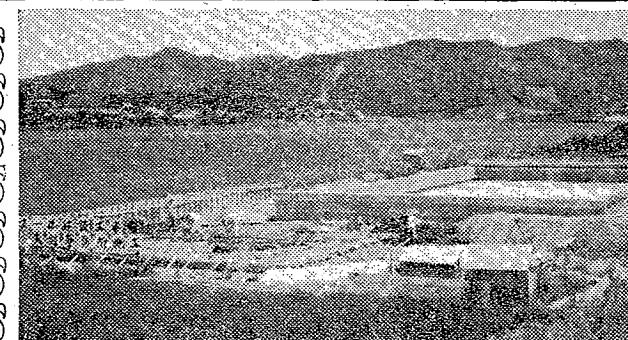
</div

学童用プール

完成で近く事業対策失業



人



完成で近く事業対策失業

子供たちは泳げなくなっています。さらに最近、砂や砂利を採取するため、いたるところに深いみちができます。子供たちの川遊びが危険な状態にあります。年々二、三人の水による犠牲者があります。

川辺町と佐地区では、こうした悩みを解消しようと、このほど御坊失業対策事務所に依頼して、細野本総理日高川鉄橋の近くに学童用プールを建設することになりました。現在失業対策事業中です。

このプールの建設事業費は四百五十五万円で、高学年用プールは延長二十五メートル十三メートル、低学年用プールは六メートル、中六年用プールは八メートルで、いま最後の仕上げに入り、完成も間近です。

完成後は子供たちを水魔から守ること

で利用でき、米の増産に役になります。

田にかんがい用水とともに、ブトルで温められた冷水は付近の地盤のみならず、子供たちも安心のこと

です。

主幹作目は、奥地の山添地で

はお茶とし海岸部の日置、舞地

ではお茶の栽培を積極的に奨励

し、お隣のさくら町、串木町と呼

べてはお茶の栽培を積極的に奨励

し、お隣のさくら町、串木町と呼

べてはお茶の栽培を積極的に奨励